

## 冬の就職戦線、学生の動きは

(声)

東京都 種田昌克 (学生 23歳)

就職戦線も心臓破りの坂にさしかかろうとしている。今年は景気低迷で、昨年以上の「厳冬」の就職戦線だという。他人事のように言ってしまったが、私もその戦線に駆り出されている一人である。

大卒男子の求人倍率が二倍を割り、女子は一倍を切ってしまうている。このような状況の下、私のまわりでは二つのタイプの学生に分けられる。一つは厳しい状況にあえて真剣に立ち向かおうとする突撃派、もう一つは早々と今年の就職戦線から撤退し、来年以降にチャンスをうかがうブランド派である。

ふと、英国生まれの思想家トマス・ペインのウインターソルジャー (危機の時勇ましいことをいう兵士)、サマーソルジャー (平和な時勇ましいことをいう兵士) という語を思い出した。

私のこれまでの就職活動で思ったことは、自分が大学で学んだこと、これからやりたいことを、自分の言葉で、自分なりに答えれば、必ず相手の方に伝わるということである。

それに、一学生の意見をじっくりと聞いてくれるので、かえって面食らってしまったほどである。結果はどうなるかわからない。しかし、この時代に就職活動ができる巡り合わせに、むしろ感謝している。